

スマートで、はかない命

## ミヤマクワガタ

*Lucanus maculifemoratus*

(Jun. 15, 2007)

ミヤマクワガタは、からだがスマートなわりに、大あごが大きく、人気のあるクワガタです。

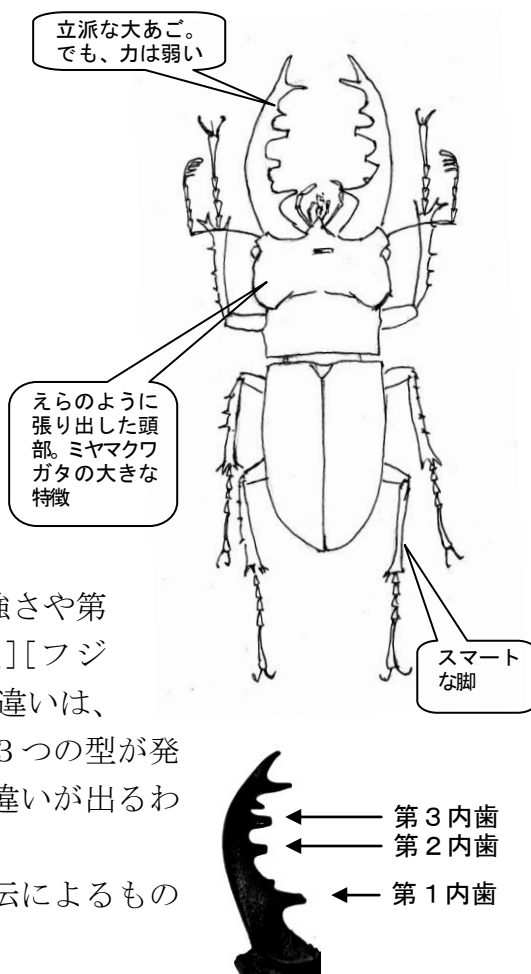
名前の由来、「ミヤマ」は「深山」という意味で、文字通り山間部に多く生息しています。姫路市では山田町や安富町でも見つけることができます。これは、涼しく、湿気のある山間の環境を好むためです。

ミヤマクワガタは、他のクワガタに比べ、形や色、生活の様子など随分違うところがある、謎の多いクワガタです。今回は、その謎を紹介します。

### ■謎①大あごの変異

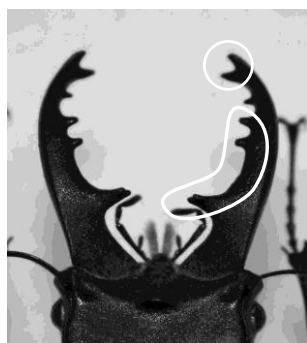
ミヤマクワガタは、大あごの先の二又の分かれ方の強さや第1内歯～第3内歯の発達の違いによって、[基本型][フジ型][エゾ型]の3つに分けられています(写真1)。この違いは、生息地域の違いに関係ありそうですが、同一地域から3つの型が発見されたという報告もあり、必ずしも、地域によって違いが出るわけではないようです。

大あごの違いが、幼虫期の生育環境、温度環境、遺伝によるものなのか、まだはっきりとわかっていません。



基本型

第1内歯はよく発達し、第3内歯より少し長い。大あごの先端は強く二又にわかれている。



フジ型

第1内歯は第2、第3内歯より著しく長い。大あごの先端の二又は弱い。



エゾ型

第3内歯が、第1、第2内歯より少し長い。大あごの先端は強く二又にわかれている。

写真1 ミヤマクワガタの型

## ■謎②からだの表面や色

日本のクワガタで、からだの表面に毛がはえているのは、ミヤマクワガタを含め、ごくわずかです。(写真2)

この毛によって、表面が黄色っぽく見えたり、赤っぽく見えたりしますが、なぜこのように全身細かい毛で覆われているのかわかっていません。

また、メスは、前脚、中脚、後脚の腿節(図1○印)がオレンジ色をしています。クワガタのメスは、大あごが小さいのでメスの種類を特定することは難しいですが、腿節の色ではっきりと「ミヤマクワガタ」のメスということがわかります。



写真2 ミヤマクワガタの側面

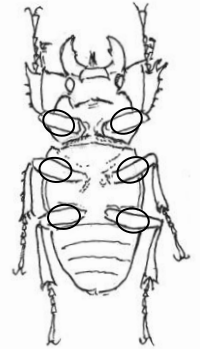


図1 ミヤマクワガタのメスの腹側

## ■謎③活動の違い

クワガタの多くは夜行性で、昼間見かけることはほとんどありません。しかし、ミヤマクワガタは、生息地によっては昼間活動していることが知られ、また、夏の灯火にも容易に集まってきます。姫路市北部の街灯には、夏場によく飛来するようで「とってきたで」と一晩で数匹のミヤマクワガタを採集された方もいます。

## ■謎④生育の違い

クワガタの多くは、アベマキやクヌギなどの倒木に卵を産みつけます。幼虫は、倒木の中で材を食べながら成長し蛹になり、やがて、野外へ出て行きます。飼育の場合でも、卵を産み付けるための「産卵木(さんらんぼく)」を入れ、産卵させます。

ところが、ミヤマクワガタの場合、腐葉土や朽ち果てた倒木の中から幼虫や蛹が見つかります。地表から数十cmの深さの腐葉土の中で蛹が見つかることもあるようです。飼育の場合、幼虫時期は大変デリケートで、エサ交換のストレスで弱ることがあります。

このように、人工的に飼育し成虫まで育てることは、大変難しいクワガタです。

## ■はかない一生

夏に産まれた卵はしばらくして孵化します。幼虫は、2齢か3齢で越冬し、翌年に蛹化(蛹になる)、晩夏から初秋に羽化します。しかし、野外には出ず、そのまま成虫で越冬して翌年の初夏に出てきます。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1年目									卵	幼虫		
2年目			幼虫				蛹	羽化	成虫(蛹室内)で越冬			
3年目	成虫で越冬中						野外へ					

ミヤマクワガタの生活史

卵から3年目でようやく地上に出て、数ヶ月で一生涯を終えることになるのです。

謎が多く、飼育が難しいヤマクワガタですが、6月23日から始まる「めざせ!クワガタ名人!!」にも登場しますので、是非、本物をご覧ください。

青野克美 (姫路科学館指導主事)